

協議結果①（R7第1回 地域医療構想部会）

【各医療圏の概況】

- ・〔県〕各医療圏の救急搬送のデータについて、比較的上位のものについて、太字としている。
- ・〔県〕能登中部・能登北部医療圏の人口等のデータについて、直近の国勢調査が令和8年中に発表される予定であり、令和6年能登半島地震後の状況については、その他の様々な情報も含めて分析・検討を進めることとしたい。

【各医療圏の地域医療構想調整会議での協議内容の確認】

個別医療機関の医療機能の見直し、病床削減に係る病床機能再編支援給付事業について、事務局から説明を行い、委員から下記のような意見や指摘があった上で、地域医療構想に沿ったものであると確認した。

- ・〔委員〕小松市民病院の建替えに係る精神病床に関し、精神科身体合併症の患者を一般病床での受入れを想定しているが、南加賀医療圏では小松市民病院が患者を受け取る状況でうまく回っているのか。

→〔委員〕身体疾患の患者を急性期で診る観点で、精神疾患合併の方も診ている様子。精神疾患メインであれば、石川中央医療圏に流れている可能性が高い。

協議結果②（R7第1回 地域医療構想部会）

【石川中央：救急搬送（地域医療構想における再編検討区域）】

石川中央医療圏における救急告示病院の状況、救急搬送の件数、それに伴う将来推計等に関して、事務局より説明を行い、委員から下記のような意見や指摘があった。

- ・〔委員〕42pの重症度別年齢区分別のデータについて、消防庁が定義する重症度（入院期間等により判断、高齢者は自然と入院期間が長くなり重症度が重い傾向にある）ならば、将来推計においてミスリーディングになる可能性があるため、注意すべき。
- ・〔委員〕石川中央医療圏は交代勤務をしている救急告示病院が少なく、医療機関の集約化する際は、富山・福井並みに医師数を確保した体制を検討する必要がある。
- ・〔委員〕要介護の方が増えることで、マルチモビリティが相当増え、救急隊の搬送時の症状・兆候の診断が不明確なケースが相当増えると考えられる。その中で、臓器別専門医が中心となるような救急医療を行っていると、患者の受取りが難しくなることも考えられ、医師の専門領域も含めて、今後の体制を検討すべき。
- ・〔委員〕救命救急体制の確保や輪番の病院ができれば望ましい。
- ・〔委員〕日によって、救急医の人数の差から救急患者の受入れに温度差が出る場面があり、救急専門医を潤沢に確保しないと解決は難しい。石川中央医療圏全体の救急担当医を把握して、バランスが取れるような仕組みを作る必要がある。
- ・〔委員〕救命救急医自体がそんなに多くなく、日本中で取り合いになっている。石川県では総合診療医の養成が事業として進んでいるが、救命救急医の育成の体制も考えていく必要がある。

協議結果③（R7第1回 地域医療構想部会）

【能登北部：奥能登公立 4 病院機能強化検討会（地域医療構想におけるモデル推進区域）】

奥能登公立 4 病院機能強化検討会での審議内容、うち第 4 回の検討会で取り扱った「奥能登の医療提供体制に係る大きな方向性（案）」について、事務局から説明を行い、委員から下記のような意見や指摘があった。

・〔委員〕能登は医療従事者がどんどん辞めていく傾向にあり、医師は地域枠等で確保できるかもしれないが、看護師やコメディカルは確保が難しい。令和8年に発表される予定の国勢調査のデータなどから、改めて人口動態をきちんと検証し、能登の医療提供体制を検討していくことが必要である。

→〔県〕広域避難の方もいることから、人口と実際の居住者数の差があると考えられ、被災者のデータベースを用いながら、分析を進めている。新病院に対する懸念の指摘も受けているが、新病院とサテライトは本当に必要な機能に絞ることとし、看護師確保対策も令和8年度から取り組み、なんとか復興を目指す地域に希望の光となるような病院を造る検討をしたい。

協議結果④（R7第1回 地域医療構想部会）

【新たな地域医療構想】

2040年を見据えた新たな地域医療構想における厚生労働省での検討状況について、事務局から説明を行い、委員から下記のような意見や指摘があった。

・〔委員〕医療と介護の連携を考える上で、地域包括ケアシステムは非常に重要な概念だが、その圏域はどのように考えているか。

→〔県〕各市町からは、郡市医師会の単位でどうかとの意見もあるが、2次医療圏で良いという声が多く、一旦検討は2次医療圏で始めることとし、各市町の考えを医療関係者・介護関係者の方々へお知らせする。その上で、医療圏の圏域を令和8年度に協議し、理想的な形にしたいと考えている。地域包括ケアシステムの圏域設定も同様である。

・〔委員〕薬局の位置づけはどのように考えているか。

→〔県〕新たな地域医療構想の検討について、病院のあり方や再編統合・費用負担の話題がメインになるかと思うが、薬局も様々な連携の中に位置づけられているので、検討にあたって様々な意見をいただきたい。

【令和7年度厚生労働省補正予算】

令和7年12月16日付で成立した厚生労働省補正予算に係る医療施設等に対する支援策について、事務局から説明を行った。

協議結果⑤（R7第1回 地域医療構想部会）

【その他】

・〔委員〕 病院の機能分化や連携が強く求められ、地域で医療を支えていく状況にあたって、個別の機関ごとに連携していくのはなかなか進展しにくいので、大学・自治体・各領域の関係者で集まって、具体的な話が面として広がるような機会を設けると良い。

→〔委員〕 医師派遣でいえば、どこの病院にどれだけの医療支援や医師派遣が必要なのか、長期的に見て配置するような計画を立てると良い。

→〔委員〕 医局制度の壁などあるが、それをなるべく取り除いて、石川県全体で考えていくような体制が取れば、理想に近付く。ただ、その主導権をどのようにとっていくかが課題。

→〔県〕 どんな形であれば進められるのか、難しい部分もあるが、検討したい。